



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月25日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 2019年12月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	52,991	△0.9	△49	—	△113	—	△157	—
2019年3月期第2四半期	53,466	1.7	1,193	1.9	1,396	7.6	1,030	14.4

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △153百万円 (—%) 2019年3月期第2四半期 1,172百万円 (3.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△6.55	—
2019年3月期第2四半期	42.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	74,311	45,891	61.8	1,910.22
2019年3月期	80,026	46,310	57.9	1,927.63

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 45,891百万円 2019年3月期 46,310百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	11.00	—	11.00	22.00
2020年3月期	—	11.00			
2020年3月期 (予想)			—	12.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年3月期 (予想) 期末配当金の内訳 普通配当 11円00銭 記念配当 1円00銭 (創業95周年記念配当)

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	118,000	0.4	3,300	△25.8	3,400	△25.5	2,300	△26.2	95.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日 (2019年10月25日) 公表いたしました「2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	27,700,000株	2019年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	3,675,613株	2019年3月期	3,675,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	24,024,387株	2019年3月期2Q	24,024,414株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境や企業収益の改善が続いているものの、年金問題などの将来不安から個人消費が十分に回復するまでには至らず、不安定な海外情勢や米中貿易摩擦など通商問題をめぐる緊張の高まりから輸出や生産の一部に停滞感が見られ、先行き不透明な状況で推移いたしました。

高額品や日用品などを中心に消費税率引き上げ前の駆け込み需要が見られましたが、菓子・飲料・食品業界では、消費動向は盛り上がり欠けるものとなりました。また原材料価格や物流費等、各種コストの上昇が続きました。

このような状況下で、当社グループは一貫して食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、世帯構造の変化や高齢者人口の増加、働き方改革などによる社会の変化、女性の活躍推進、消費者の購買行動や嗜好の多様化などへ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や企画提案型の営業活動、品揃えの強化と魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動に努めてまいりました。

その結果、ビスケット品目やチョコレート品目などが伸張したものの、冷凍品目の消費一巡や、販売ルート限定商品でのニーズへの対応に手間取ったことにより売上高は前年同期を若干下回りました。

利益面では、原材料価格やエネルギーコストが依然高止まりの状況下で、コスト削減、生産性の向上、経費の効率的な使用などに取り組みましたが、競争激化に伴う販売促進費の増加や、原材料価格の上昇に伴う価格改定の遅れなどにより営業損失となりました。加えて、為替差損の影響などにより経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失となりました。

なお、8月の九州北部での豪雨や、9月の台風15号によって甚大な被害を受けた地域に、当社はミネラルウォーターやお菓子の支援物資をお届けさせていただきました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、50,306百万円（対前年同期比100.6%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、ココア風味のラングドシャクッキーにビターチョコレートを詰めた「ショコラルーベラビター」や、国産大麦を使用した「32枚大麦の香ばしクラッカー」を発売しご好評をいただきました。また、シナモンの甘い香りやキャラメルのコク深い味わいが特徴の箱ビスケット「カラメリー」をリニューアルするなど品質の向上にも取り組みました。秋に向けての“いも・栗スイーツ商品”の発売や、ハロウィンに合わせた商品展開を積極的に行ったほか、「128gミニ濃厚チョコブラウニー」が引き続き好調に推移したことから、マイベネフィット商品群が伸張しました。オリジナルビスケット商品群やパーティタイプ商品群、小箱ビスケット商品群なども順調に推移しました。

チョコレート品目は、やさしい甘さと香りが広がる「アルフォートミニチョコレートメープル」を発売し、さらなるブランド強化に取り組みました。また、チョコスナック商品の「きこりの切株」シリーズに、パウチタイプ商品や小袋タイプ商品を発売しお客様のニーズにお応えする商品展開を行いました。加えて、もちもち食感の小箱チョコレート「もちもちショコラ」シリーズにティラミス味を発売するなど、品揃えの強化を図りました。

スナック品目は、まるやかなチーズの旨さと後から感じる刺激的な辛さをマッチさせた「ピッ辛チリチーズ味」、「辛さわぎポップコーンチリチーズ味」を発売し夏向けの商品提案を行いました。さらに、「プチポテト」シリーズはリニューアル品が順調に推移したほか、カップスナック商品群、ライススナック商品群などが伸張したことから前年同期を上回りました。

菓子全体では夏場の天候不順の影響によりデザート品目が伸び悩んだものの、ビスケット品目、チョコレート品目が伸張したことから、前年同期並みの推移となりました。

飲料・食品・冷凍・その他の合計売上高は、2,685百万円（対前年同期比77.2%）となりました。

飲料品目は、「牛乳でおいしく抹茶ラテ」シリーズを発売し、品揃えの充実に取り組んだほか、「おいしいココナッツミルク」にルート限定商品を発売しブランドの認知拡大を図りました。また、防災・備蓄用として、ローリングストックの考えをパッケージに取り入れた「防災天然水」を地域限定で発売し、お客様の防災・減災に関する意識の向上に努めましたが、競争激化の状況下で前年同期を下回りました。

食品品目は、カカオ感、ミルク感、甘さのバランスを見直しリニューアルした「240gミルクココア」を発売しました。また、機能的食品は、栄養調整食品「スローバー」シリーズにスイートポテト味を発売し、商品ラインアップの充実を図りました。さらに、「120gミルクココア繊維習慣」を発売し、健康志向の高まりに応える商品展開を行いました。既存品の伸び悩みなどにより前年同期を下回りました。

冷凍品目は、当社飲料商品「おいしいココナッツミルク」の味をイメージした夏向けのモナカアイス「おいしいココナッツミルクアイス」を発売しました。また、「ルマンドアイス」シリーズにストロベリー味を発売し店頭販促強化による拡販に取り組んだものの、既存品の伸び悩みにより前年同期を下回りました。

その他では、通信販売事業は、季節に合わせた商品の展開と魅力のある品揃えを強化し、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組ましました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益性向上と効率化に取り組んだほか、設置の展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、小麦麦芽を主体とした夏限定のホワイトエールビール「SOMETIMES BREWS（サムタイムズ ブルース）」を発売し、クラフトビールの魅力を伝える商品展開を行いました。ナショナルブランド商品に加え、受託生産も好調であったことから前年同期並みの推移となりました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は52,991百万円（対前年同期比99.1%）、営業損失は49百万円（前年同期 営業利益1,193百万円）、経常損失は113百万円（前年同期 経常利益1,396百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は157百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益1,030百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は32,397百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,733百万円減少となりました。これは主に、現金及び預金ならびに受取手形及び売掛金の減少と商品及び製品の増加があったことによるものです。固定資産は41,914百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,017百万円増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得があったことによるものです。

この結果、総資産は74,311百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,715百万円減少となりました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は21,038百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,071百万円減少となりました。これは主に、支払手形及び買掛金ならびに未払費用の減少と法人税等の支払があったことによるものです。固定負債は7,381百万円となり、前連結会計年度末に比べ225百万円減少となりました。

この結果、負債合計は28,419百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,297百万円減少となりました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は45,891百万円となり、前連結会計年度末に比べ418百万円減少となりました。これは主に、利益剰余金の減少があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は61.8%（前連結会計年度末57.9%）となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は12,676百万円となり、前連結会計年度末（18,015百万円）に比べ5,338百万円減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は2,113百万円（前年同期753百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失179百万円および仕入債務の減少額2,565百万円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は2,654百万円（前年同期3,327百万円の支出、対前年同期比79.8%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,392百万円があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は537百万円（前年同期417百万円の支出、対前年同期比128.7%）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出150百万円および配当金の支払額264百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年4月25日の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日付で「2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,878	12,553
受取手形及び売掛金	14,060	10,076
有価証券	136	123
商品及び製品	3,674	5,302
仕掛品	501	636
原材料及び貯蔵品	2,430	3,092
その他	460	616
貸倒引当金	△12	△4
流動資産合計	39,130	32,397
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,193	14,086
機械装置及び運搬具(純額)	11,044	11,546
その他(純額)	8,468	8,981
有形固定資産合計	33,707	34,614
無形固定資産		
のれん	1,205	1,148
その他	381	389
無形固定資産合計	1,587	1,538
投資その他の資産		
その他	5,601	5,761
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	5,601	5,761
固定資産合計	40,896	41,914
資産合計	80,026	74,311

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,095	9,526
短期借入金	1,750	1,700
1年内償還予定の社債	—	100
未払法人税等	974	192
賞与引当金	1,164	1,440
返品引当金	47	38
その他	10,078	8,040
流動負債合計	26,110	21,038
固定負債		
社債	100	—
長期借入金	450	350
役員退職慰労引当金	239	227
退職給付に係る負債	5,937	5,871
負ののれん	17	17
その他	861	915
固定負債合計	7,606	7,381
負債合計	33,716	28,419
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	39,792	39,371
自己株式	△941	△941
株主資本合計	46,678	46,256
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	292	169
為替換算調整勘定	△398	△324
退職給付に係る調整累計額	△261	△209
その他の包括利益累計額合計	△368	△364
純資産合計	46,310	45,891
負債純資産合計	80,026	74,311

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）
売上高	53,466	52,991
売上原価	31,910	32,137
売上総利益	21,555	20,854
販売費及び一般管理費	20,361	20,904
営業利益又は営業損失（△）	1,193	△49
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	35	33
為替差益	102	—
負ののれん償却額	0	0
その他	82	63
営業外収益合計	223	100
営業外費用		
支払利息	4	4
減価償却費	9	9
為替差損	—	131
その他	7	17
営業外費用合計	21	163
経常利益又は経常損失（△）	1,396	△113
特別利益		
投資有価証券売却益	138	0
特別利益合計	138	0
特別損失		
固定資産処分損	30	54
減損損失	0	0
災害による損失	—	11
その他	20	0
特別損失合計	52	66
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	1,482	△179
法人税、住民税及び事業税	589	99
法人税等調整額	△138	△121
法人税等合計	451	△22
四半期純利益又は四半期純損失（△）	1,030	△157
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	1,030	△157

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,030	△157
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	△122
為替換算調整勘定	89	73
退職給付に係る調整額	38	51
その他の包括利益合計	141	3
四半期包括利益	1,172	△153
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,172	△153
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	1,482	△179
減価償却費	1,982	2,059
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△37	△36
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	4	4
為替差損益（△は益）	△113	92
投資有価証券売却損益（△は益）	△138	△0
固定資産処分損益（△は益）	30	54
減損損失	0	0
投資有価証券評価損益（△は益）	16	—
売上債権の増減額（△は増加）	3,686	3,982
たな卸資産の増減額（△は増加）	△2,433	△2,429
仕入債務の増減額（△は減少）	△1,342	△2,565
賞与引当金の増減額（△は減少）	304	276
その他	△1,637	△2,608
小計	1,861	△1,291
利息及び配当金の受取額	37	36
利息の支払額	△4	△4
法人税等の支払額	△1,140	△852
営業活動によるキャッシュ・フロー	753	△2,113
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,448	△2,392
投資有価証券の取得による支出	△175	△206
投資有価証券の売却による収入	311	0
その他	△14	△55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,327	△2,654
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△100	△150
社債の発行による収入	99	—
リース債務の返済による支出	△133	△123
配当金の支払額	△264	△264
その他	△20	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△417	△537
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△32
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△2,991	△5,338
現金及び現金同等物の期首残高	17,942	18,015
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,951	12,676

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。